

平成22年6月22日

(別紙)

平成21年度の評価を受けて

NHKは、視聴者の意向をよりの確に事業運営に反映するため平成21年4月、「視聴者視点によるNHK評価委員会」を設置しました。

この委員会は、前身のNHK“約束”評価委員会の活動を引き継ぎ、全国3600人の視聴者調査などをもとに、公共放送に対して視聴者の皆さまが何を期待しているか、また、その期待にどの程度応えているかを評価することをねらいとしています。

本日、21年度の評価結果が福地会長に答申されました。

報告書によると、評価は5段階評価で行われ「放送の信頼性」については、緊急報道の実績や大型番組の反響などを踏まえ、NHKが達成しなければならない水準の3点を上回る3.6点とされています。

また、NHKの放送サービスについて、視聴者に支払い意思額(WTP)を尋ねた結果、地上波・衛星波ともに現行の受信料額を上回り、地上波については、過去2回の“約束”評価の結果に比べて上昇したと報告されています。

一方、NHKの「経営の信頼性」については、3点にとどかない2.5点と評価され、変化への対応力や人材育成などへの課題が指摘されました。

NHKとしては、3点を超える評価をいただいた「放送の信頼性」については、これに安住することなく、今後とも良質な番組の提供に努めてまいります。厳しい評価をいただいた「経営の信頼性」については、評価結果を真摯に受け止め、改善に向けて組織の活性化などに一層努めてまいります。

評価報告書および概要版は、NHKのホームページに掲載し公表します。